

自然環境調査報告書第 12 集にあたって

堀井 達夫

(トトロのふるさと基金 調査部会)

キーワード：墓地開発；キタリス；狭山丘陵

狭山丘陵に残された貴重な自然は減少することはあっても、増える事は無い。中でも墓地開発に依る減少は目を覆いたくなるほどである。三ヶ島二丁目で進行している墓地開発は多くの市民の反対にも拘らず所沢市が許可しようとしている。最後まで反対の意思を発信し続ける覚悟であるが、予断は許されない状況にある。自然を守る為にトラスト地の確保には最大限の尽力を惜しまずに努力したいと思っている。

在来のニホンリスとの交雑が懸念される外来種のキタリスの捕獲調査が始まり、調査部会としても協力し、その実態を知ること努めたいと思っている。又、痕跡調査の後中断していたアライグマの捕獲調査も再スタートさせるべく準備中である。

第 11 集発行後に新しく取得されたトラスト地は 20 号地から 31 号地の 12 か所と、大幅に増えた。本号にはトトロの森 20 号地、21 号地、22 号地の調査結果と管理方針の提言を川越が行っている。

田んぼの復活以来行っている北野の谷戸の有害物質調査を北浦が報告している。

トトロの森 5 号地と 11 号地の萌芽調査報告を後藤、岡本、関口が行い、北野の谷戸におけるアメリカザリガニの生活史を長井、関口が報告している。後藤、岡本、長井と関口は海城中学高等学校の生徒と先生であるが、若い人達の参加はフレッシュであり、今後も大いに歓迎したいものである。

報文としては、榎本勝年氏からいきものふれあいの里センターエリアの野鳥について、石田祐三氏からは多摩地域・狭山丘陵の湧水の水質特性と、狭山丘陵・トトロの森周辺の空間放射線量の現状として貴重な報文を投稿いただき、掲載している。

謝辞

掲載した調査のそれぞれを多くのボランティアの協力によって実施することができた。また、北野の谷戸の有害物質調査においては早稲田大学自然環境調査室の竹内氏のご支援・ご協力をいただいた。この場を借りて深く感謝申し上げます。